



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局

Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>

Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第370号

(創刊 1988.12.14)

2020.07.05.

桂台トンネル工事予定について

新型コロナ禍でNEXCO 東日本は横環南線においても感染拡大防止目的で4月25日～5月10日まで休工していましたが、工事は再開され、過日西ヶ谷町会に対して以下のような説明がありました。

桂台トンネルでは西ヶ谷と上之の間にある発進立坑から西へ湘南桂台予定地地下をシールドマシンで掘進し、桂台小学校先の回転立坑の所でマシンが反転し、西ヶ谷方向に折り返してきます。

シールド掘削土搬送用ベルトコンベアは神戸橋にすでに建設されている橋脚、橋台を利用した仮橋、庄戸パイロットトンネルを通過し釜利谷 JCT まで設置されますが、途中環状4号線の上を横断します。その工事が、7月18日(土)深夜0時～早朝5時30分頃まで、悪天候の場合は翌日同時間に行われます。その間迂回路が設置され4号線を通行止めになります。

桂台トンネルの概要は、シールドによる掘削距離は往復で2640mあり、掘削土層は野島層(擬灰質砂岩、砂岩、砂質泥岩、泥岩、泥質砂岩)で、土被り6.2～39.2mで、勾配1.31～1.77%、トンネルの直径は15mとなります。シールド機は直径15.28mの泥土圧式で、現在組み立てを行っており、組立完了は8月中旬頃を予定。

なお、トンネル掘削にあたりセグメント等の関連資材の搬入と資材置き場及び作業場として、防音ハウスの設置工事が今も行われており8月末頃に完了する予定です。

そして、9月末頃までにセグメント等資材搬入の仮設道路設置整備が終了します。

資材搬入路は、4号線から住宅街を通ることなく直接工事区域に入り、カルバート

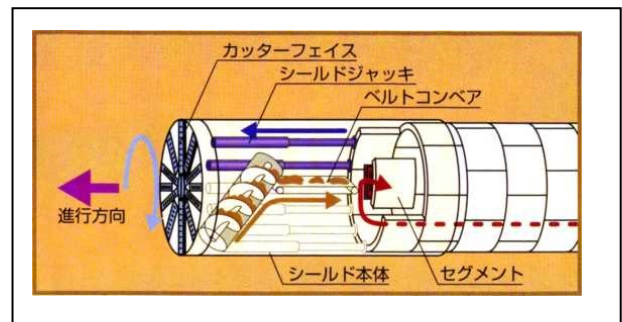
ボックスを通り、防音ハウスの中へと進入します。

10月からシールドマシンの試運転が始まり、その後本掘削工事に進むこととなります。桂台の回転立坑に到達するのは2021年5月頃になる見込みです。

以上が桂台トンネル工事の向こう1年間の予定見込みです。

なお、工事に関しては関係自治会等で日々安全等の確認・監視を続け、事業評価監視委員会監視委員会の付帯意見『地域住民との十分な対話を基礎に、環境対策や安全対策に積極的に取り組み、現実的な範囲で最善を尽くすこと。』に基づき、住民の不安や疑問があれば即座に解決すべく事業者との交渉を行うこととします。

(シールドマシンによる掘削イメージ)



(西ヶ谷 R. 高村)

対外活動報告

- 06/01 富士田栄新区長と面会(会長)
- 06/03 区政推進課課長訪問(会長)
- 06/17 道路全国連45年記念誌編集会議(会長)
- 06/20 いたち川護岸改修工事に関する
NEXCO 説明会(会長他6名参加)
- 06/23～29 市道路局の上郷公田線説明会
(朝日平和台町会が対象)
- 06/25 大豆戸陥没現場視察(新横浜2号線)

いたち川護岸改修工事 NEXCOの説明会が開催される

6月20日午前、コロナ問題で2月24日当日直前に中止となった説明会が笠間町の現場事務所で行われ概ね50名が参加した。

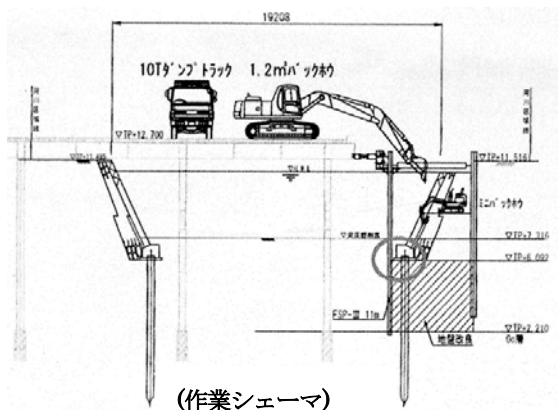
【工事概要】(説明資料等から要約)

いたち川兩岸の護岸には底面に杭があり、水神橋と笠間会館の中間の右岸の杭にシールドトンネルが当たることから護岸改修工事を行う。

○工事期間 2019年9月～2021年10月

○護岸改修概要

- ① 川の中に仮栈橋設置
- ② 仮栈橋上から重機で鋼矢板を現護岸を挟んで打ち込み
- ③ 現護岸撤去
- ④ 杭引き抜き
- ⑤ 護岸下部地盤改良
- ⑥ 新護岸設置。改護岸長さは45m。



【主要質疑応答】(Q:質問、A:回答)

Q1:10か月説明がないまま工事が進んでいる。重機の騒音・振動で体調悪化している。窓の建付けが悪くなっている。補償してくれるのか?

A:準備工することはビラ等での周知で相談して(どこと相談したかは言わず)進めてきた。重機は低騒音型を使用。建物損傷時は横浜工事事務所の担当部門に連絡ください。

Q2:いたち川はたびたびオーバーフローしている。どう出水対策をしているのか?

A:仮栈橋・護岸撤去の鋼矢板設置で河川流路断面積減少分は河床を掘り下げる。(栈橋設置による流速低下分の加味の有無には回答な

し。但し、上流側にはごみの付着防止のため半円筒保護板をつけるとのこと)

Q3:2016年7月の笠間公田トンネル工事説明会でなぜ説明しなかったか?

A:護岸に杭があることは予想されていたが影響度が不明なため工事計画に入れていなかった。2018年に調査して工事することとした。

Q4:河川管理者である県の工事許可が下りたのか?なぜ準備工事ができるのか?

A:現在進めている準備工事(鋼矢板を含む)は許可済み、護岸改修工事は届け先が違うので、許可後に着手する。

(改護岸工事とその準備工事は技術的に一体工法と見える。目的の護岸改修工法が未許可の中で10か月も早く準備工事の先行許可は正に官民なれ合い構図と見えてしまう)

Q5:大型クレーンの転倒・倒壊が心配、風速表示が必要ではないか?

A:工事業者の遵守事項で適切に管理される。風速計はつける予定はない。

Q6:「トンネル位置・深さ等設計に基づき工事が進んだ中で実はトンネルに杭が当たって既存護岸側の改修が必要」とは、明らかに設計、工事計画のミスである。工事費はどの位か?当然ミスした原因者が工事費負担すべきである。

A:工事費は手元がないので後日回答する。今後の工事を極力削減すべく努力して対応する。

Q7:全体工事費削減の中でというが、今年一月に全体工事費を4800億から5800億円と増額したのではないか!全体工事費削減なんてことは空絵ごとだ。ミスがNEXCOなら工事費はNEXCOで負担すべき。万が一にもこの改修工事費に税金の負担があってはならない。

A:回答なし

(事務局長 長谷川誠二)